

教員名	菅 聡子 (KAN Satoko)
所 属	人間文化研究科国際日本学専攻
学 位	博士(人文科学) (2000 お茶の水女子大学)「尾崎紅葉・樋口一葉の文学— 〈近代〉をめぐる物語—」
職 名	助教授
URL/E-mail	kan-s@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

近現代日本文学 / 女性表現 / ジェンダー / メディア / 表象分析

◆主要業績

- ・編集『樋口一葉 小説集』(ちくま文庫、平成17年10月、416pp)
- ・「聖なる患者は〈父の言葉〉を超えられるか—鹿島田真希論」(「群像」平成17年10月、pp46-60)
- ・「近代の〈遊女〉断想—国家のための女たち—」(「立教大学日本学研究所年報」平成17年3月、pp49-58)

◆研究内容

近代日本文学を研究対象とする。とくに、明治から現代にいたるまでの女性表現について、ジェンダー批評ならびに国民国家成立のプロセスとの連関、女性の国民化とメディアの関係などについて考察する。また、サブカルチャーを含めた出版文化において、女性がどのように表象されているか、その表象の生成と受容、再生産、消費について論じる。

2005年においては、とくに、戦後文学史における女性表現の位置を再考すべく、集英社『田辺聖子全集』の編集に携わり、その解説を執筆するとともに、『別冊解釈と鑑賞 田辺聖子論』(至文堂、刊行は2006年)に着手した。一方で、文芸誌『文学界』の創作月評を下半期担当し、現代文学批評を行った。その一環として、現代女性作家・鹿島田真希について、現在のサブカルチャー等の問題と関連させつつ論じた。

◆教育内容

学部教育においては、文学史ならびに近現代日本文学においてカノンのとされる作品群について、現在的な批評の視点から教授する。また、講義科目においてもディスカッション形式を採用し、学生の自主性ならびに自己表出能力の育成を目論む。ゼミにおいては、研究者育成のもっとも基礎となる部分を養うべく、調査・分析・考察・発表・資料作成について、基本的な能力を育てる。

大学院教育においては、専門性を重視し、研究者の育成を前提とした高度な授業内容を保持する。具体的には、2005年においては、戦争とジェンダーをゼミの主題とし、それぞれの個人研究の成果についての発表に加え、上記のテーマについて、壺井栄『二十四の瞳』林芙美子『浮雲』等を分析対象として、講義をおこなった。

◆将来の研究計画・研究の展望

女性表現と国民国家の共犯関係ならびに背戻について、「文学的感傷」の機制を視座として、具体的な作品を対象に論じる。対象とするテキストは明治～昭和の期間のものだが、問題の設定は現在的なもので、サブカルチャー等を含めた、日本の現在にコミットする考察になる。(詳細は未公開)

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・サブカルチャー、とくに女性たちの手になる文化についての比較研究

◆受験生等へのメッセージ

文学研究は、ともすれば現実社会とコミットしていないと考えられがちだが、それは誤りである。私たちは、つねに「物語」のなかを生き、ときに、より「大きな物語」による抑圧を受ける。そのような抑圧にあらがうために、私たちは「物語」自身のみならず、その「物語」を発信・受容するシステムや、「物語」のコンテクストを読み解く力を持たなければならない。そのような広い意味でのリテラシーを得ることができるのは、文学研究の分野である。そもそも、現在の私たちをとりまき脅かす「大きな物語」の原型は、すべて過去にすでに語られたものなのだ。そのようなアクチュアルな学問の形として、文学研究はある。